

## 安全・危機管理ワーキンググループ 議事概要

平成27年11月18日

文責 坂谷定生

開催日時：平成27年9月28日（月）18：30～20：00

開催場所：株式会社トーヨーアサノ6F会議室

出席者：坂谷GR、北川理事、平井理事、剥岩理事、鈴木一行、渡辺康夫、大坪安全委員長、寺澤寿一 計7名

### <議事概要>

坂谷：これまで協議してきた緊急対応フローチャートをまとめたい。また、緊急対応の組織が JSAF 内に必要かどうかという点においては、これまでの議論の中では必要だろうという方向性かと感じているので、最終的にどのように WG として提言していくのかということを確認していききたい。

まず、外洋艇のフローチャートについて意見を伺いたい。

大坪：事前準備の項での表現や使用字句が適切でないものがある。外洋艇ではオフショアとインショアがあり、このフローチャートでは全体は対応できないのではないかと。

坂谷：外洋艇、ディンギーという分け方では無くオフショア、インショアという分け方のほうがしっくりするかもしれない。

川北：大型艇の場合オフショアとインショアの事故に関する想定で大きな違いは何か。

大坪：インショアの場合は運営艇がいるから事故発生の場合救助に向かえるが、オフショアの場合はその部分は全く無いということであり、レース本部について言えばオフショアの場合はスタート後終了までずっとワッチ体制をとるが、インショアの場合は海上運営が主となり陸上本部はどちらかということとなおざりになりがちで、事故対応まで考慮した体制にはなっていない。

坂谷：このフローチャートはもともと簡略的な全体的な流れを示しているものということを確認して考えた方がいい。

川北：フローチャートを関係者にどういうふうに使わせたいのかが課題で、マニュアルでガチガチにしても現実と乖離していくと、絵に書いた餅になってしまう。

鈴木：要するに教育だと思います。何か参考になるものが HP に載っていれば、運営者が議論して考えるだろうし、この議論する事が大切であるとする。JSAF は議論するたたき台を提供する。主催者はレース運営者ですよということを伝えるのがこの WG の仕事じゃないかと思う。それ以上に法的責任とか危機管理の対応策とかになった時に、JSAF 内にその窓口があればそこそこ解決して行くのではないかと。

坂谷：本フローチャートはうまく出来ているというのが皆さんのご意見なので、会議案内に示したように変更点があるなら言ってください。

鈴木：まずは2015年のバージョン1を作って、その後安全委員会でもんでもらって続いていけば方向性は見えてくるのではないかと。

坂谷：安全委員会とこの WG の関係を一度調整する必要があると思っていたが、今日は

安全委員長さんが出席なので率直な意見を伺いたい。

大坪：事故防止のための安全啓蒙、すなわち事故以前のことが安全委員会の仕事で、事故が起きた後の事は我々の事業には入らないと考えており、事故前、事故後の区切りと考えている。JSAF が主催で事故が起きた場合、あるいは加盟団体が主催で事故が起きた場合、それぞれ JSAF がどのように対応するのかを検討するのが危機管理 WG と思っている。

鈴木：危機管理の部分を安全委員会に取り入れるということも一つの考え方としてはあるので、現時点でどうというよりは将来どうあるべきかを考えて議論した方がいいと思う。

大坪：事故前、事故後に線引きをしたのは、事故を前提とした対応をしようとする膨大な人員、予算が必要で現状の安全委員会では対応不可能であることから事故後は業務では無いと言わせてもらった。

川北：JSAF の委員会の位置付けは、実務を担当する現場の人たちをサポートすることだと理解しているので、サポートすることに対してどの程度人員が必要なのかということだと思うので、WG と安全委員会との線引きは意識することは無いと思う。

平井：我々は WG なので提言したら解散すればいいと思うが、いろんな資料を作った後それを普及する仕事があるので、関連する委員会に振って継続させて4、5年したら見直すという作業も必要だ。

渡辺：事故報告をまとめていけばそれがそのまま教科書になるのではないか。そういう事が出来る仕組みを作るのがいいのではないか。

平井：それは JSAF と加盟団体、特別加盟団体との間で加盟に関する契約を結び、その中で義務付けない限り個人情報満載の事故報告書を強制的に出せとはいえない。

大坪：現状では事故報告書の提出をお願いするしかないが、まず出てこないのが現実だ。

鈴木：外国では完全に情報は吸い上げているが、日本では義務とペナルティーがなければまず何も出てこないで、情報収集しようとするれば JSAF は関係団体との契約により縛らなければ難しいのが現状だ。

川北：マニュアル的なものを作るとすれば、こうしなさいというマニュアルではなくリスクガイドが示されるようなものがないのではないか。

寺澤：フローチャートは一枚によく纏まっているし、WG が構築したものとして JSAF の HP にアップしたり、加盟団体に送ったりして周知してほしい。

川北：HP に貼ることはいいが次にどのような方法で周知させたり、徹底させたりする方法を考えることだ。

平井：それは実務委員会を作ることだから理事会マターではないか。

大坪：レース委員会の外洋小委員会に私もメンバーとして入っていて、レースを開催する上で事故を想定した体制作りなどについてもマニュアル化しているので、普及するとすればどの委員会でも出来る。

寺澤：これから先は JSAF としては事故例と対応方法例の提示をしていけばいいのではないか。

川北：これらの考え方を周知、啓蒙するための講習会の時などに、臨場感を持たせるために事故及びその対応例は非常に役立つ。また、事故に関する蓄積したデータを管理

する組織も必要になる。

- 平井：JSAF 主催のレースに関しては事故対応の手法をアピールした方がいいと思うし、将来に向けてそれを脈々と続けていくことが大切ではないか。
- 坂谷：今年のジャパンカップは初めて JSAF 主催で開催したが、インショアの上下レースが主なので、外洋レースの事故対応方法とは全く違うので、今回は海上の本部船、運営艇をはじめ陸上本部、海保、警察、消防、病院等の関係を図式化し、連絡網を整える一方、特に海上においては事故発生に対する行動が迅速に行われるよう、艇長会議で確認し合い事故に対する対応の考え方を共有した。
- ディンギーのレースで JSAF 主催という国体やオリンピックウィーク等があるが、国体競技で事故が発生した時にはどの部署がどのように対応するのか。
- 川北：国体では行政で実行委員会を組織しているので国対委員長、レース委員長、発着水路部長(県職)が連携、一体化しているので、事故対応も三者だ。レース委員長はほとんど船に乗らず全体管理をしており、海面は発着水路部長が仕切っている。ただ情報は共有している。
- 坂谷：JSAF 主催といえどもこのような場合は JSAF にお助けチームがいなくてもいいようだが、ディンギー系で心配なのはどんなケースがあるのか。
- 川北：レース中のことはあまり心配していない。練習が心配だが WG としてレースを主体に考えるならフローチャートに関しては今の案で充分だ。

この後、フローチャートについて細部にわたって協議、調整した結果、課題となった部分は、大坪安全委員長が調整、提案することとなった。

(これまでの意見、調整事項及び後日の大坪安全委員長からの提案を含めて修正したものを完成案として添付した。)

- 坂谷：次回はフローチャートを公表は勿論だが、これまでの会議の中で皆さんから出ていた意見等を提言文書として纏めたいので、項目、文案等考えてきていただきたい。

次回開催は 12 月 4 日 (金) 18 時 30 分と決定し閉会した。